

平成 29 年 2 月 2 日

京口門だより No. 40

今年は寒い日がつづき、風邪をひく方も多いいことです。2月4日ははや立春です。「音なしに春こそ来たれ梅一つ」(召波)

このたよりでは昨年から高脂血症についていろいろと申し上げてきました。今回も動脈硬化症とコレステロールについて述べてみたいと思います。一般にコレステロール値が高いと我々の身体の動脈が硬く狭くなって血液の流れをさまたげたり、時には動脈をつまらせたりして、重大な病気、例えば心筋梗塞や脳卒中などを起こすのだと考えられています。この動脈硬化症はコレステロールのせいであるという説に疑問を投げかけている人たちがいます。動脈の壁にまずコレステロールがくっついて、動脈の管が狭くなったり硬くなったりするのではなく、じつは、動脈の壁に細菌やウイルスなどの微生物がくっついて、それを除くためにコレステロールと結びついたたんぱく質が微生物と反応して、結果的に動脈の壁に傷や腫れものを作り、それをひきがねに動脈が狭く硬くなってゆくという説です。コレステロールは悪ものではなく、動脈の壁を守ろうとする善玉の役を演じているというものです。動脈硬化をくわしく見ると、始めは動脈の壁にポツポツと腫れもの(かゆ状のプラーク)ができてきます。それにさまざまなものがくっ付き積み重なって、次第に動脈の壁を硬くし狭くします。それが動脈硬化です。

少し分かりにくいかもしれませんが、要するに動脈硬化の始まりは、コレステロールが原因ではなく、微生物の感染によるものという説です。そのことはコレステロールが悪もので、血液中に高い場合はただちに下げなければいけないという説に反対する考えです。医学の世界では議論が続いています。しかし、これまで見てきた事実から、どうもコレステロール悪もの説には賛成しがたい気がします。

ところで、漢方薬の桂枝茯苓丸という薬は動脈硬化を予防する作用があります。面白い働きがあつて、実験動物のウサギに動脈硬化をつくり、動脈の壁に腫れもの(プラーク)が多くできますが、桂枝茯苓丸をかなり長期に与えますと、この動脈の壁の腫れものがほとんどなくなってくるというものです。動脈硬化の原因にはあれこれ議論がありますが、漢方薬にはほかにも動脈硬化をふせぐ働きがあります。

